■特集

# 新入生に読んでほしい本。

札大生、特に新入生の皆さんに読んでほしい本を教員、学生、卒業生の方々に選んでいただきました。紹介されているオススメ本は、すべて図書館で借りることができますので、気になる本がありましたらぜひ読んでみてください。

## 岩佐 香穂梨　経営学部3年

### 青空のむこう

**アレックス・シアラー著**
**金原瑞人訳**
求龍堂／2002
[933 ‖ Sh14]
第2開架閲覧室

やり残したことがあるんだ。
帯のところに書いてある言葉が気になる、青空の表紙の本。

物語の主人公は、突然交通事故にあい、命を失ってしまうハリー。その命を落としたハリーの視点、心情、死後の感想として描かれてゆきます。読みすすむと、人の心の痛み、良いところを見出すなど、さまざまな気持ちが生まれてきます。

これまで人が死をむかえるまでの気持ち、後に残された人々の去られてしまう苦悩を描いた小説や映画などたくさんありましたが、この「青空のむこう」は、命を失った側からのその後の世界が表現されているところが、とてもユニークな作品だと私は感じました。機会があれば手に取ってみてほしい本だと思います。

## 塚本 鋼平　大学院経営学研究科2年

### 知識創造企業

**野中郁次郎・竹内弘高著**
**梅本勝博訳**
東洋経済新報社／1996
[336.3 ‖ N95]
第2開架閲覧室

日本企業が成功してきたのは、日本型イノベーションの鍵である「組織的知識創造」の技能・技術である。この本では人間の知識を、文章や形式言語で表わされる「形式知(explicit knowledge)」と、日本企業の競争力の重要な源泉だったが無視されていた、文章や形式言語では表しにくい「暗黙知(tacit knowledge)」に分けている。この2つの「知」の相互作用に注目しながら日本企業の素晴らしさや問題点について触れてみてはどうだろうか。

### 多元化する「能力」と日本社会：ハイパー・メリトクラシー化のなかで

**本田由紀著**
NTT出版／2005
[361.4 ‖ H84]
2階書庫

1970年代から1990年代後半までは、成績や学歴などの教育達成を手にすることができれば、それを基にした社会的地位についてもかなりの確実性で予測することができた。しかし1990年代後半から現在においては、成績や学歴などの教育達成を前提に「人間力」が重視される、「ハイパー・メリトクラシー（超業績主義）」化しているという。この本を読んで、現在の社会背景と求められている能力や人材とは何かを考えながら読んでみてはどうだろうか。

### 自由からの逃走

**エーリッヒ・フロム著**
**日高六郎訳**
東京創元社／1974
[361.5 ‖ F48]
2階書庫

「自由」を求め、「自由」を獲得した末に、更なる「自由」を求めるのか、それとも「自由」から逃避するのか。高校から大学に進学し、学問から私生活まで、多くの「自由」が増える今、近代社会が苦難の末に獲得した「自由」の行く末について、歴史の中から発見し、今の自分が求める「自由」とは、本当の「自由」とは何かを考えながら読んでみてはどうだろうか。

## 河森 計二　平成8年度法学部卒 小樽商科大学准教授

### 僕はいかにして指揮者になったのか

**佐渡裕著**
新潮社／2010（新潮文庫）
[B762.1 ‖ Sa13]
文庫本コーナー

大学では、いろいろな人と出会い、これまで経験したことのない様々な体験をすることになるでしょう。

本書では、世界的指揮者・佐渡裕氏の生い立ちから下積み時代を経て指揮者となるまでの半世が綴られています。指揮者としての正式な教育を受けていない自称「音楽界の雑草」が、なぜ巨匠・バーンスタインに可愛がられたのか。「世界のオザワ」との出会いをはじめ、さまざまな出会いが彼という人間形成に大きな影響を与えたことは間違いないでしょう。しかし、そこでの出会いがあったから、いまの彼がある。出会いがなければ、現在の佐渡裕はなかったと評することも可能かもしれません。しかし、出会いという一言で片づけられる以上に、彼自身がユーモラスにそれぞれの出会いのなかの人間関係を受け止めている姿が、いまの「サド・ユタカ」を形成しているものと思えます。現在の姿になるまでは、時には苦しく辛い時期もあったでしょう。海外で公演を行うときには、文化的な違いから、心ない言葉を浴びせ聞かされたりしたこともあったと思います。そんな中でも、バーンスタインの言葉を借りれば「泥まみれのジャガイモ」精神で、物事を前向きに、明るく道を切り開く。本書は、そんな佐渡さんの「心のたくましさ・力強さ」が感じられる一冊でもあります。

みなさんも、大学では様々な「人」と出会うことでしょう。大学4年間という貴重な時間をもつことができる幸せを、本書をひも解くことで感じることができたなら、これからの人生を「ユタカ」にする貴重な大学生活をおくることができるものと信じています。